

「なすかしの森 セカンドスクール2020」報告

実施日：令和2年10月中旬～11月下旬

【目的・趣旨／概要】

「なすかしの森セカンドスクール」は、参加児童のみならず教師・保護者・教育支援スタッフ・施設職員が学び合う場として、「五者の育ちの場」となるよう、5つの視点の目標を掲げて実施。今年度で14年目となる。

【連携先】

- ・三菱製紙株式会社 エコシステムアカデミー
- ・日光国立公園 那須平成の森

【参加校・日程】

西郷村立小学校および棚倉町立小学校合計8校5年生合計209名

棚倉町立近津小 10月19日(月)～23日(金) 4泊5日【1学級23名】

棚倉町立高野小 10月21日(水)～23日(金) 2泊3日【1学級11名】

西郷村立小田倉小 10月26日(月)～30日(金) 4泊5日【3学級72名】

西郷村立米小 11月9日(月)～13日(金) 3泊5日【2学級34名】

最終日は米小学校で実施

棚倉町立社川小 11月10日(火)～13日(金) 3泊4日【1学級28名】

西郷村立熊倉小 11月16日(月)～20日(金) 4泊5日【2学級54名】

西郷村立羽太小 11月16日(月)～20日(金) 4泊5日【1学級13名】

西郷村立川谷小 11月24日(火)～27日(金) 3泊4日【1学級8名】

なすかしの森 セカンドスクール 2020



【プログラム概要】

① スクールタイム【教科等に関連付けた体験活動プログラムの実践例】

「沢歩きハイキング（理科：流れる水のはたらき）」

既存プログラムである「沢歩きハイキング」コースの一部を活用して、「流れる水のはたらき」の学習を行った。事前に研修指導員に対しても研修を行い、理科の教科としてのねらいに迫る内容を体験学習することができた。実際に自然の中での流れる水を目の当たりにして、学びを深めた。

（実施校：近津小・小田倉小・米小・社川小・熊倉小・羽太小・川谷小）

「エコシステムアカデミー森のめぐみの体験学習（社会科：私たちの森林と生活）」

連携企業であるエコシステムアカデミーによる「森のめぐみの学習」を、社会科の教科としてのねらいを達成できる内容に再構成していただき、講義と紙すき体験を合わせた学習を行った。理論的な学びと、実際の活用方法としての紙すきを通して、学びを深めることができた。

（実施校：近津小・高野小・小田倉小・米小・熊倉小・羽太小・川谷小）

② なすかしの森タイム【長期集団宿泊体験】

「ナイトハイク」

宿泊体験だからこそできる夜の森を歩く体験を行った。満天の星空を見ることができた学校や、五感を研ぎ澄ませながら暗闇を楽しむ学校など、普段の生活ではできない経験となった。

「キャンプ or キャンドルファイヤー」

火を囲み、楽しい時間を過ごすことで、仲間を感じたり、自分自身を振り返ったりすることができた。教育支援スタッフと児童で協力しながら企画することで、達成感を感じることもできた。

【企画・運営上工夫したこと】

- ・コロナ禍において、宿泊日数を減らしたり、最終日を学校で実施したりと、柔軟に対応。
- ・西郷村校長会と連携してスクールタイムにおける共通プログラムを作成し、実施。
- ・「沢歩きハイキング」において、研修指導員の事前研修会を実施。
- ・教育支援スタッフの負担を軽減しながら、教育効果が高まるように、やるべきことなどを精選。

【成果】

- ・児童の意識調査として、「基本的な生活習慣」「自己肯定感」「コミュニケーション」について、事前事後の変容を見たが、いずれも上昇した。
- ・教科等に関連付けた体験活動プログラムの検証ができた。特に研修指導員の研修会を行ったことで、教科のねらいを踏まえた活動の展開とすることができた。
- ・教育支援スタッフにとっては、教員を目指す気持ちを高めたり、それぞれの教育観を作り上げる大きなきっかけになったりした。
- ・学校の先生方にとっては、単元学習の中に体験学習をどのように取り入れるかなどの、カリキュラムマネジメントの視点を持つきっかけとすることができた。

《参加者の声》

「キャンドルファイヤーが心に残った。」「(体験的な学習に対して) 楽しくて、わかりやすかった。」

「普段より、たくさん考えて話げできた。」「支援スタッフのようになりたい」等

【課題と方策】

- ・体験活動において、どの程度大人が介入するのかという点で、先生方、各講師、施設職員とがねらいをしっかりと共有するというところに課題が残った。
- ・実施段階のスクールタイムにおける施設職員の介入や、なすかしの森タイムにおける共通項目について、さらに実態に合わせていく必要がある。

国立那須甲子青少年自然の家【作成】企画指導専門職：増田 直人